

第100号
 秦野市民生委員児童委員協議会
 発行人 熊澤道子
 編集 広報部
 連絡先
 〒257-0054
 秦野市緑町16番3号
 TEL 0463 (84) 7711

地区社会福祉協議会について

秦野市社会福祉協議会（以下、『市社協』は、前号(第99号)で『社会福祉法人』と説明し、活動内容を紹介しました。

一方、市内には地区社会福祉協議会（以下、『地区社協』）という団体があります。各地区の自治会連合会で組織され、民児協や他の団体と連携・協働して地区の福祉活動を行っています。市社協は法人であり、地区社協は任意団体です。

今号は、地区社協について調査・整理をしました。（下表参照）

地区社協は、市内に7団体あり、市社協と連携して、行政サービスでは補えない地域ごとの『きめ細やかな福祉活動』を推進していく自主的な活動を行っています。

地区社協の構成団体は、自治会・民児協・婦人会・保護司会・子供会・食生活改善推進団体・ボランティアコーディネーター・身体障害者福祉

協会・手をつなぐ育成会などがあります。

地区社協と民児協

現在の地区社協の会長（地区自治会連合会会長）と、構成団体である各地区の民児協会長を紹介します。地区民児協の会長はそれぞれの地区社協で副会長や会計となつています。

秦野市地区社協の会長・副会長			
南地区会長 高橋徹夫	本町地区会長 佐野典文		
南が丘地区 須永克子	南地区 和田房枝	末広地区 水流嘉津子	本町地区 熊澤道子
秦野市各地区の民児協会長			

秦野市地区社協の会長・副会長							
西地区副会長 森谷賢一	西地区会長 井上雅裕	鶴巻地区会長 宮川邦生	大根地区会長 吉田正弘	北地区会長 笠原良夫	東地区会長 高橋正弘		
堀川地区 田村正一	渋沢地区 石川義雄	西地区 添野幹子	鶴巻地区 丸山清江	広畑地区 北村均	大根地区 中志陽一	北地区 廣川士朗	東地区 猪股登美子
秦野市各地区の民児協会長							



	市社協	地区社協
性格	社会福祉法に位置づけられた民間団体 社会福祉法という法律のなかで地域福祉の推進を図ることを目的とする団体	市社協と連携して、自治会ごとのきめ細やかな福祉活動を推進していく自主的な任意団体 法的な位置づけはなく、住民の自主組織
対象地域	市域全体	市内に7地区（本町・南・東・北・大根・鶴巻・西）
組織構成	(1) 地区社会福祉協議会 (2) 地区民生委員児童委員協議会 (3) 地区自治会連合会 (4) 社会福祉法人及び社会福祉を目的とする事業を運営する者 (5) 社会福祉団体 (6) 社会福祉に関する活動を行う者 (7) 社会福祉学識経験者	(1) 自治会 (8) 身体障害者福祉協会 (2) 民生委員児童委員協議会 (9) 手をつなぐ育成会 (3) 婦人会 など (4) 保護司会 (5) 子供会 (6) 食生活改善推進団体 (7) ボランティアコーディネーター
取り組み	住民による福祉活動の支援 総合相談センター『きゃっち。』の運営 ヘルパー派遣等の生活支援サービスの提供	住民互助活動としての取り組み ・配食サービス・敬老会・ふれあいまつり・ボランティア研修会 ・子育てサロン等（各地区社協により異なります）
運営財源	公費補助・会費・寄付金・事業収入	交付金（市社協普通会費の6割）・その他

市社協ホームページより転載（注）本表は平成31年4月1日時点の数値等であり、参考掲載します

	本町地区社協	南地区社協	東地区社協	北地区社協	大根地区社協	鶴巻地区社協	西地区社協*
人口	21,198人	32,687人	15,845人	13,377人	26,390人	15,210人	西：38,064人 上：2,227人
世帯数	9,149世帯	13,147世帯	6,360世帯	4,945世帯	14,097世帯	7,574世帯	西：15,561世帯 上：764世帯
自治会の加入率	70.34%	58.99%	60.28%	73.59%	47.12%	55.89%	西：67.43% 上：85.28%
実行予算	1,992,033円	2,105,155円	1,521,873円	2,076,434円	4,009,832円	2,273,639円	3,505,224円
対応する民児協	本町地区 末広地区	南地区 南が丘地区	東地区	北地区	大根地区 広畑地区	鶴巻地区	西地区 渋沢地区 堀川地区

*西地区社協は「西地区自治会連合会＋上地区自治会連合会」のエリア



東地区社協



南地区社協



本町地区社協



鶴巻地区社協



大根地区社協



北地区社協



西地区社協

各地区社協の広報紙

地区社協の福祉活動

地区社協では、それぞれの地域の特徴を活かした福祉活動を展開しています。活動内容は各地区により異なりますが、主な内容を列挙します。

◆ 広報活動

地区社協だよりの発行や福祉講演会の開催など

地区社協だよりは、保健福祉センターや各地区の公民館などで配布・掲示

◆ ふれあい・交流活動

福祉ふれあいまつりや地域交流会など

◆ 研修・学習活動

役員研修会やボランティア学習会など

◆ 小地域ネットワーク活動

二丁ブ対応チームによる見守り活動など

◆ その他

シルバー料理教室や構成団体の支援など

ある町の新任民児委員さんにインタビューしました



Q 女性に年を聞いて失礼ですが？

A 66歳です。

Q 町の人口と民児委員の人数は？

A 人口は約1万9500人で約7800世帯。民児委員は38人、主任児童委員は2人です。

Q 民児委員になつたきっかけは？

A 区長（自治会長）はじめ地区の役員さんからの強い要望で、お断りできませんでした。

Q どんな活動をされていますか？

A 毎月ひとり暮らしの高齢者、障がいのある方を抱えている家庭、認知症の方を抱える高齢者世帯を20軒ほど訪問しています。

Q 大雨の時は避難場所の開設を知らせたり、安否確認をしたりしています。これから台風の時期を迎えるのでスムーズな活動ができるように心掛けたと思っています。

Q また、主任児童委員さんと一緒に、生後3か月までの乳児がいる家庭を訪問しています。その時、読み聞かせの絵本を町からのお祝いとして差し上げています。

Q 新型コロナウイルスの影響は？

A 新人研修やセミナーなどが中止になり残念です。

Q 毎月の定例会は6月から再開されましたが、グループ討論が中止となり、他の地区の民児委員さんとの意見交換などができなくなりました。

Q 家庭訪問は毎月行っています。

Q 民児委員になられてどうですか？

A 地区の皆さんと知り合いになれたことはありがたいと思います。一方活動の中で家庭の事情にどこまで関わっていいのか悩むところです。

Q その他、地区の高齢者参加の行事や活動には必ず関わらないといけないところが大変ですが、程々の距離感を保ちながらお付き合いしていこうと思っています。

Q 民児委員活動で何か要望や疑問とかありますか？

A 1年目で分からないことが多く、言われたことを理解するだけでいっぱいです。

Q 「謝辞」活動の状況や、地域による違いもわかって参考になりました。ありがとうございます。お互いにこれからも前進していきましょう。

われらの仲間

一緒に活動している仲間を紹介するコーナーです。

日頃のあなたを紹介しますので、掲載ご希望の方は自薦他薦構いませんので、広報部にお知らせください。インタビューにお伺いします。

第一回目に紹介するのはこの方です。

鶴巻民児協

羽ヶ崎雅司さん



鶴巻公民館まつり(令和2年2月16日)で演奏される羽ヶ崎雅司さん

そのチェロの先生はプロのチェリストで鶴巻地区で高齢者登録をされている方です。

2月16日(日)鶴巻公民館まつりで、羽ヶ崎さんのグループ(先生も含めて7名)が楽しそうに、サウンドオブミュージックメドレーを披露されました。

羽ヶ崎さんが本格的にチェロを始めたのは10年ほど前。その10年前には、すでにグループに参加していたのですが、現役の時は時間の余裕がなく十分な練習ができなかったそうです。現役を退き時間が取れるようになって心安定のために本腰を入れ始めたとのこと。

グループでの練習は月2回、公民館等を利用して行われていますが、新型コロナウイルスのためこの数か月は集まっていた練習ができているというので、さらに7月に予定されていた発表会も延期。

また、自分の演奏だけでなく、小学校の弦楽クラブでも教えておられます。

チェロの魅力を感じてみました。「音色の響き・合奏の醍醐味」との答えが返ってきました。

音楽は気持ちを落ち着かせ、心を豊かにしますよね。羽ヶ崎さんたちのチェロの音色が多くの方々に届くことを楽しみにしています。

湧水

私たちの活動

西地域高齢者支援センター



西地域高齢者支援センター

私たち西地域高齢者支援センターは、社会福祉法人むつみ福祉会に所属しています。秦野市から業務委託を受け、地域内の高齢者の総合相談窓口としての役割を担っています。

丹沢の麓、秦野市西部、澄んだ空気が温かい陽ざしに恵まれた、みくるべ地区に位置します。老人ホーム菖蒲荘を拠点に、入居者の笑顔を近くに感じながら、地域の皆さまから気兼ねなくご相談を頂けるよう、活動しています。

職員は、主任介護支援専門員2名、社会福祉士2名、看護師1名、介護支援専門員2名、実態把握担当職員1名の計8名です。

令和2年6月末時点で、当センターが活動する上地区、西地区の高齢化率は30%を超え、増加傾向にあります。そのような状況下で、当センターに頂く相談は年間6000件（令和元年度実績）を超えます。その内容も、介護保険の利用に関する

相談に留まりません。認知症をはじめ医療や障害、生活困窮など、多くの課題が複雑に絡み合い、当センターだけでは対応が困難な内容が増えています。そのような方たちを住み慣れた地域のなかで支援するには、行政やサービス事業所だけでなく、民児委員や地域の方々にも多くの協力を仰ぐ必要があります。

平成30年4月からは、認知症地域支援推進員としての活動も専門職が兼務しています。認知症になってもその人がその人らしく暮らしていけるよう、医療と介護の連携強化だけでなく、認知症の方やそのご家族の支援を効果的に行うための体制づくりに努めています。普及啓発活動の一つとして、令和2年2月には、「目をかけ、気にかけて、声をかけ」をテーマに声掛け体験を実施しました。会場となった堀川公民館に、地域の方だけでなく、当事者の方やそのご家族等、多くの方が集まり、参加者自身が気づきを感じた言葉で声を掛けるという体験をして頂きました。当事者役を演じたキャラバン・メイトも当事者の立場になって多くの気づきがありました。何気ない言葉や仕

草などの自然なサポートによって得られる安心を実感することができました。

おわりに

新型コロナウイルスによって、地域の皆さまが自粛を余儀なくされている活動なども多いです。西地域高齢者支援センターも昨年度のような活動ができていない現状にあります。

しかし、その中で出来ることを職員一人ひとりが考え、高齢者支援センターがあることを多くの方に思い出して頂けるようにしたいです。職員の健康管理、感染症対策を行いながら、地域をはじめとする関係機関の皆さまと顔の見える関係づくりに努めていきます。



声掛け体験の様子

編集後記

早朝ウォーキングを始めて間もなく半年。鳥の声や川の音に癒され、季節の花を愛で、昇ってきた太陽の光を全身で浴び、体を目覚めさせる心地良さを感じながら、気持ち良い汗を流しています。いつの間にか駅の階段も苦にならなくなりました。「継続は力なり」と言いますが、続けることは大事なのでですね。

昭和62年に創刊された「まなざし」は、今号で100号を迎えることができました。これまでの「まなざし」を紐解くと、それぞれの時代の話題が掲載され、懐かしんだり、感心したり。皆様のご協力・ご尽力に感謝すると共に、伝え続けることの大切さを感じました。これからもニーズに合った話題を提供していきたいと思えます。

今年新型コロナウイルスの影響で、オリンピックが延期されたり、私達の活動も制限されたり中止になったりと大変な年でしたが、広報部は、より良い紙面作りを目指して頑張っています。これからもご支援をよろしくお願いたします。

(井上 美佐江)

